

火頭山田種

の3

彦春野田



初めに

意味を追いながら種田山頭火の自由律俳句を英訳しています。

句集『其中一人』から12句、そして『行乞途上』から9句の計21句を選びました。

本書では1ページに3句ずつ表示して、訳は句のすぐ後にあります。

日本語表記は現代仮名遣いに直しました。

種田山頭火について：

行乞しながら自由律俳句を作り続けた俳人です。

没年は昭和15年です。

CGイラストレーションについて：

山頭火の世界を複合的にイメージしながら制作しておりますので、必ずしも特定の1句をイラストにしたと云うわけではありません。また、原画CGのサイズは724×1024ピクセルまたは640×480ピクセルです。

制作に使用した画像処理ソフトウェアは次の通りです。

ArtRage 3 Studio Pro (アンビエント社)

Photoshop Elements 10 (アドビシステムズ株式会社)

参考文献について：

次の文献を参考にしました。

山頭火句集 (ちくま文庫)

2000年6月15日 第5刷発行

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り (株式会社大修館書店)

1994年4月1日 改訂版初版発行

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷 (株式会社三省堂)

昭和50年9月15日 第1刷発行

Longman Dictionary of American English (Longman Inc.)

First printing 1983

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

句集『其中一人』より 1 2 句



其中一人 : Therein Alone

ひっそりかんとしてぺんぺん草の花ざかり

All is silent and deserted around here and shepherd's-purses are in full bloom.

誰か来そうな空が曇っている枇杷の花

The loquat blossoms tell me that someone may come under the cloudy sky.

いつしか明けている茶の花

Before I know, it has dawned with a whisper of blossoms of tea plants.



雨ふるふるさとははだしであるく

The rain falls in my homevillage and I walk in bare feet.

ゆう空から柚子の一つをもらう

I am given a citron under the evening sky.

月が昇って何を待つでもなく

Although the moon has already risen, I do not intend to wait for anything and I have nothing to do.

草の実の露の、おちつこうとする

I try to settle down, like a dew on a grass seed.

すずめおどるやたんぽぽちるや

Sparrows are dancing and seeds of dandelions are scattering.

落葉ふる奥心かく御仏を観る

I feel a budha in the depth of woods, where the leaves fall.



かるかやへかるかやのゆれている

A wind blew to the eulalia, whose shape is swinging.

一人の火の燃えさかりゆくを

I alone watch a wood fire burning fiercely.

雪へ雪ふるしずけさにおる

I keep still to the quiet of the snow which falls onto the snows.

句集『行乞途上』より9句



行乞途上 : In the midst of religious austerities for begging

きょうもいちにち風をあるいてきた

All today together with winds, I have walked and come as usual.

あるけばきんぽうげすわればきんぽうげ

If I walk then buttercups follow me, and if I sit down on the ground then buttercups sit down too.

何が何やらみんな咲いている

All and everything are in bloom.



いそいでもどるかなかなかなかな

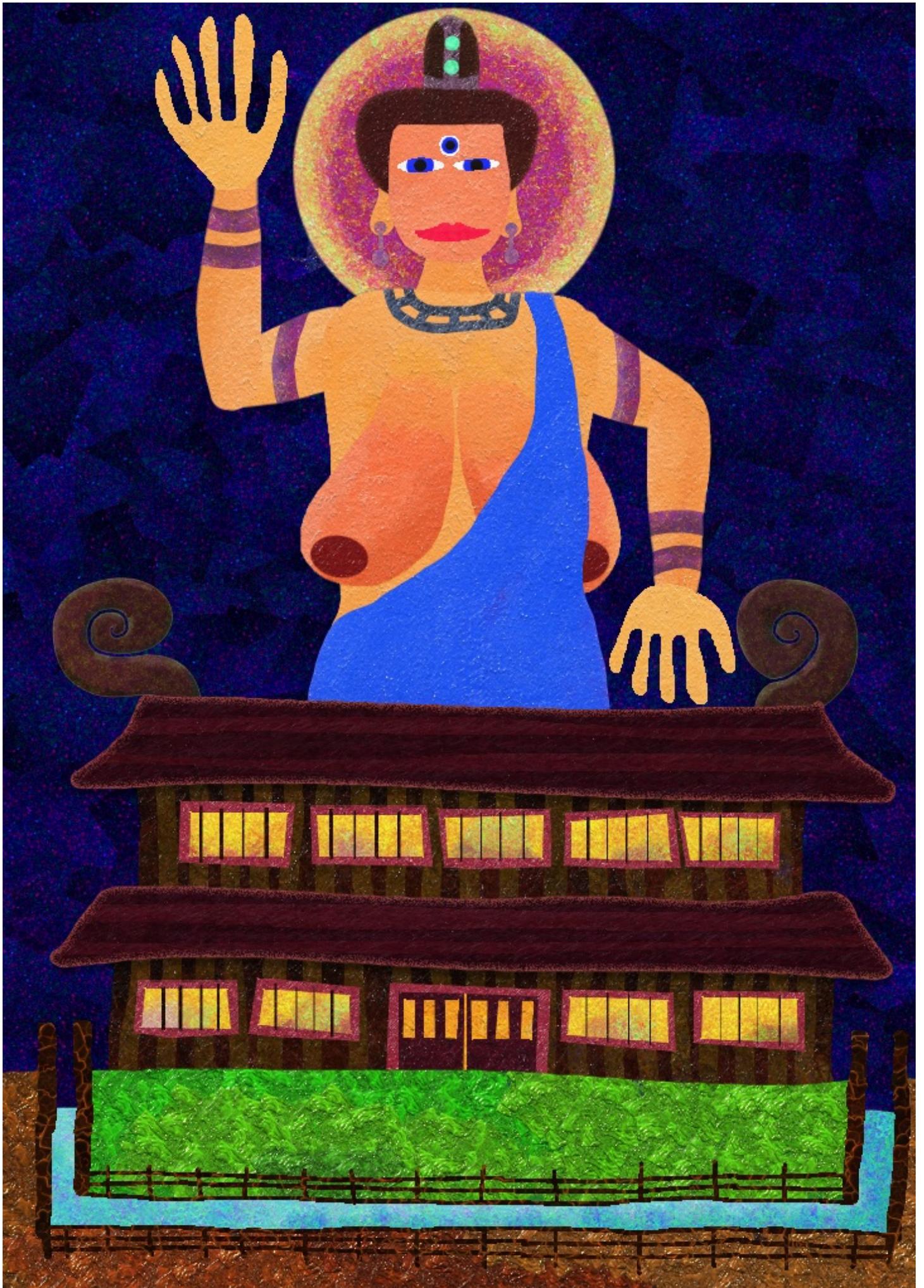
I return in a hurry with chirps of cicadas.

旅の法衣がかわくまで雑草の風

I wear a wind on weeds until my clerical robes for a journey dry.

かたむいた月のふくろうとして

I gaze at the declining moon instead of an owl.



水をへだてておなごやの灯がまたたきだした

The lights of a prostitute house have begun to gleam beyond the moat.

うつむいて石ころばかり

I looked downward and found stones only.

松かぜ松かげ寝転んで

I lie down within the shade of a pine tree under a breeze coming through pine trees.

終りに

著者について：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。2004年より活動をはじめたフリーランスのライター&イラストレーターです。作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

次回作について：

山頭火の句集『山行水行』と『旅から旅』より、本書と同様の英訳およびイラスト制作をする予定です。

（2013年 4月 茜町）

種田山頭火 その3 (其中一人・行乞途上より21句：イラスト・英訳)

<http://p.booklog.jp/book/69257>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69257>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69257>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ